

平成23年10月24日(月) No.31
 江戸川区立第六葛西小学校 校長 伊藤辰久

江戸川区西葛西4-5-1 電話(3688)0485・Fax(3688)0510
 メールアドレス:kasai6e@EDOGAWAKU.ed.jp

ゴミを減らす 捨てればゴミ リサイクルは資源 = 4年生社会科見学 =

東京湾に東京都の廃棄物埋め立て処分場があるのをご存じだと思います。江戸の昔から生活の中で出てくるゴミを埋め立てて来た場所です。江東区の潮見、夢の島、若洲などは埋立地で、今では人が住んだりしています。現在は、その先の中央防波堤、そして中央防波堤外側埋め立て処分場、新海面処分場が残されているだけだということです。



(環境やゴミの廃棄などを学ぶ)

4年生社会科見学は処分場を見学した時のお話です。このままいくと子どもたちが50歳くらいになるころには埋め立て場はいっぱいとなり、ゴミの処分が大変になってしまうとのことでした。

そこで考え出されてきたのが徹底してゴミを減らすということです。ゴミを①可燃ゴミ、②不燃ゴミ、③粗大ゴミ、④資源ゴミの4種類に分類する。捨てればゴミですが、リサイクルすれば資源になります。燃やすと1/20の量になり、その灰に高熱をかけるとさらに1/2の量の「スラグ」

という砂のようなものになり、1/40の量に減らすことができるとのことでした。粗大ゴミも徹底して壊して燃やすなどして処分するなど減量化を図っているとのことでした。

ゴミを4つの分類に家庭でも徹底することが何より大事です。このことは子どもたちでもできる内容です。

未来がゴミで大変なことにならないように、今からでもできることをしなくては、と4年生全員が思った社会科見学となりました。



(粗大ゴミ「たたみ」の処分)

11月1日は

『ネパール姉妹校記念日』です

11月1日は「ネパール姉妹校記念日」です。子供たちによる「ネパール姉妹校記念日集会」を10月26日(水)に開催します。「姉妹校記念日集会」では、ネパール紹介やネパールクイズなどを代表委員会が行います。また、「記念日」を前後して、各学年でも生活科や総合的な学習の時間、学級活動の時間などを活用して、ネパールについての理解と共感を深めることにしています。

このようなことを学習します。

- 1年生・・・ネパールを知る。(先生の話など)
- 2年生・・・日本の良いところ紹介カードを作成して送る。
- 3年生・・・ネパールの歌に触れる。(歓迎の意の歌)
- 4年生・・・ネパールの方の話を聞き、ネパールについてまとめる。
- 5年生・・・ネパールの方の話を聞き、ネパールについての調べ学習を進める。

また、2月には支援のための募金活動『ユニセフ募金』も代表委員会の活動として全校的に取り組むことになっています。

次に「ネパール姉妹校」についての経過を紹介します。

ネパール・ジャナジョティ小学校と第六葛西小学校との関係

今年で本校は創立37年目になります。平成6年、開校20周年の記念事業として始められたネパール・ジャナジョティ小学校との「姉妹校提携交流」は、今年度で16年目を迎えました。その経過を簡単にお知らせします。

心に残る記念品を

周年行事では、記念品を子どもたちに贈る事がほとんどでした。本校の20周年記念委員会では、物ではなく子どもの心に残る事業はないかと検討が進められました。子どもたちにも呼びかけ、子どもたちの考えも聞きながら検討していくなかで次のような結論に到達しました。

「身近なアジアの中には、学校に行きたくても行けない子どもたち、学びたくても学校がなく学べない子どもたちがたくさんいる。アジアの子どもに学校を贈ろう。」という事でした。

学校を建設しよう

自分たちのお小遣いをちょっと我慢するだけで学校が建設できる。子どもたちはユニセフ募金などに取り組みました。子どもたちに国際的な視野を育てたい、との願いも込め

てPTAは積立金やバザーに取り組み、地域の自治会・町会などの協力も得て、200万円余りの資金を捻出することができました。

どこの国に学校を建設するか、候補地を外務省、日本商工会議所、NHKなどにも相談しながら模索され、最終的には、政情が安定していて親日感情も強い国、ネパール（当時は王国）が紹介され、検討の結果、国連を仲介にする事で本校の願いが間違いなく実現する、としてネパールに決定しました。

平成7年11月に本校から代表団がネパールに派遣され、バネバ市にジャナジョティ小学校を建設し、「姉妹校交流」を始める協定が締結されました。

姉妹校交流では

平成8年12月、ジャナジョティ小学校が開校し、本格的な交流が始まりました。

互人的な交流をする。この間何度か代表団の行き来がありました。

日本より：平成7年11月、平成8年12月、平成12年12月

平成18年12月、平成20年12月、平成22年12月

ネパールより：平成8年10月、平成10年11月、平成11年11月、平成21年10月
第1期姉妹校提携では、毎年20万円の資金援助をすることで開始され、第2期以降現在までは年間10万円（PTAより5万円、児童会のエコセフ募金より5万円）の資金援助を継続しています。また、代表団の派遣時には、鉛筆やノートなどの文具品、サッカーボールなどの運動用品などを届けてきました。

①11月1日を「ネパール姉妹校交流記念日」とし、児童会を中心に、毎年『ネパールを知る集会』などの活動を定めています。

②本校の2階にはネパール資料室を設置しています。

③互人的な交流の時には児童会や作文などのやりとりなど、ジャナジョティ小学校と本校児童との交流もしてきました。

豊かな心情が育ってほしい

ネパール・ジャナジョティ小学校との姉妹校交流では、この交流を通じて子どもたちの心豊かな心を育ってほしいと願っています。

①お国境以外の国と交流することで、その国の生活や文化、風俗などを理解し、尊重する気持ちを養いたい。そのことをとりもなおさず「国」を愛し、自国の文化や生活をいっそうよりよくしていこうとする精神の育成につながるがほしい。そして、国際感覚がふれる子どもに育ってほしい。

②発展途上の児童の実態を知り、支援の活動や交流活動を進めることでボランティア精神の発揚を図りたい。

③活動を通じて、自他の違いや互いに尊重し合う態度、思いやりの精神、自らの生活や態度をよりよくするには何が必要か、などを考えることができる子どもに育ってほしい、と願っています。

④子どもたちにこうした心情が確かに根付いていることを実感しています。

17年以降の主な交流

1) 代表団をお招きしました

姉妹校交流10周年にあたる平成17年11月、「姉妹校交流10周年」を記念してPTAや「姉妹校協力委員会」の応援でジャナジョティ小学校から第3次訪問団として、児童代表2名、大人代表2名、計4名の代表団を本校にお招きすることができました。本校の子どもたちにとってもすてきな心の交流になりました。

平成21年10月25日から11月1日までの期間、現地校より3名（児童2名、大人1名）の代表団を招聘した。児童代表は、ホームステイを主とし、いっそうの交流をふかめることになった。大人の代表は、宮代芳信（第八代PTA会長）氏の自宅に宿泊した。

2) 訪問団を派遣しました

平成20年10月12日、平成20年12月に22名、平成22年12月17日、21名のジャナジョティ小学校訪問団を派遣しました。児童会の呼びかけで集められた文房具品などを持参しての訪問に現地では熱心な歓迎を受けました。

3) 交流の発展を願って

平成19年12月には、ジャナジョティ小学校に「幼稚園コース」「高校コース」が新設され、20年には図書室が新設され、その中には「六島西文庫」も設置されました。また、パソコン室も整備され、国の特別指定校となっています。こうした校舎建設費用などは、本校の財政支援によるものです。18年12月に訪問した際に新校舎竣工式が催され、希望落成したものです。

平成20年度から第3期姉妹校交流（6年間）として継続していくことになりました。

4) 平成22年12月、ネパール・バネバ市より『名誉市民』として表彰される

第6次ネパール訪問団は、長年の交流に対してジャナジョティ小学校の設置者であるバネバ市が姉妹校交流が始まった時からのメンバー7名を『名誉市民』として表彰したいとの申し入れがあり、それを受けて訪問団を派遣しました。

表彰されたメンバーは、関口 晴雄（姉妹校委員長）、宮代 芳信（第八代PTA会長）、甘原 春美（学校評議員）、宮代 文子（姉妹校委員）、橋本 正晴（第6代校長）、吉田 詩重（第七代校長）、伊藤 辰久（第十代校長）

5) そのほかの動き

平成23年12月に第7次姉妹校訪問団が来校し、高島市立ジャナジョティ小学校に高校課程を新設しようという気運が高まり、本校の「ネパール姉妹校委員会」のサポートにより高校課程新設を実現しました。それ以降、代表団の訪問団文房具品などの援助を行っています。

④ネパールの大学に「日本語学科」の新設にあたり、ネパールとの交流が深い本校に対して東京都知事本局外務部から依頼があり、子供たちが使用した「国語の教科書」の贈呈することになりました。平成23年2月28日、本校で『贈呈式』が執り行われました。約200冊の国語の教科書がご家庭より寄贈されました。